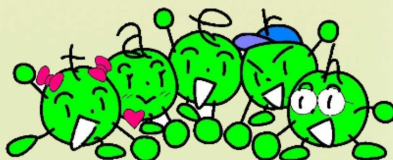


こどもエコクラブ 活動報告集2019

こどもエコクラブは、幼児から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。令和元年度は、秋田県で35クラブが登録し、2,862人（令和2年3月1日現在）のメンバーが環境に関わるいろいろな活動を行いました。

この報告集は、各こどもエコクラブから今年度行った活動について報告をいただき、それらをまとめたものです。報告には、みなさんの今後の活動の参考となるところがたくさんあります。これからの活動がさらに広く深くなるための手助けになれば幸いです。



活動紹介

1 秋田大学教育文化学部附属中学校 情報・科学部（秋田市）

私たちは今年度もグループ研究に取り組みました。「流動層と物の密度と浮き沈みの関係は？」という研究では、地震の際に起こる地面の液化化現象について模型による実験を行い、その対策について調べました。また、本校で開催された秋田大学の先生による講座に参加し、雲と雪の成り立ちについて学び、自然との関わり方を考える良い機会となりました。



2 秋田東中学校 科学部（秋田市） （R1環境教育支援校）

秋田東中学校科学部では、学校の花壇で、農薬を使わない環境に優しい野菜の栽培に挑戦しました。ミニトマト、キュウリ、トウモロコシ、エダマメ、インゲンマメ、ダイコンなどを育て、収穫後は科学部全員で美味しくいただきました。



トウモロコシの収穫



秋田市理科研究発表会

また、身近な環境問題の研究にも取り組みました。学校周辺の二酸化窒素や浮遊粉塵と交通量の関係について調べた研究と地域を流れる旭川について、場所や天候の違いによるCODの変化について調べた研究です。そして、9月28日の秋田市小・中学校児童生徒理科研究発表会で、その研究成果を発表しました。どちらの研究も、新しい疑問が出てきたので、これからも研究を続けたいです。

3 あきたみどりフレンド（秋田市）

“継続は力なり”平成時代と令和元年も子供達が環境に関心を持ち続ける参加型の企画に大きな成果がみられる今年でした。

現地体験後の子供達のワークショップで、地球の大切さを皆んなで守り未来に残す「緑の財産」である事を語り合えたこと。自然のど真ん中で思い思いの体験から学習として多くの友達が参加出来たこと。森の役割や森の生態系の関係を森の管理人、みどりフレンドサポーターの説明で多くの触れ合いと地域との絆が深まりました。

秋田県立博物館の自然展示コーナーと併設のオリンピック展示を見て、みんな地球に対する行動だと思いを膨らませていました。



小枝・木の実・松葉工作体験



由利本荘市
大内三川学習林

4 秋田南高等学校中等部自然科学部（秋田市） （R1環境教育支援校）

私たち自然科学部は3学年合わせて25人で活動しています。今年度は、これまで続けてきた猿田川に生息する微生物の研究や世界的に問題になっているマイクロプラスチックに関する調査に加え、葉緑体と植物の器官とのつながりについての研究に新たに挑戦しています。また、毎年夏に秋田拠点センターアルヴェで開催されるワークショップに参加し、砂鉄スライムやビーズスライムなどの様々なスライムづくりを通して、たくさんの方々に科学の面白さや楽しさを伝えることができました。これからも「科学する心」を大切にして活動していきたいと思っています。



マイクロプラスチックの
調査の様子



採取した
マイクロプラスチック



ワークショップ
スライムづくり

5 旭川小学校清流キッズエコクラブ (秋田市)

(R1環境教育支援校)

旭川小学校では3年生になると、二ホンタンポポについて「二ホンタンポポを育てる会」の皆さんの協力を得て、学区内の群生地で見察をさせていただいたり、特徴や育つ環境などについて教えていただいたりしています。その中で、環境の変化や様々な人の営みが、二ホンタンポポを減少させていることも学び、自然環境を守っていくことの大切さに気づきました。

今年、少しでも貢献ができればと思い、種をいただいて育てる活動にも取り組んでいます。



6 浅舞小学校たいよっこエコクラブ(横手市)

浅舞小学校は、全校児童262名で「ひまわりプロジェクト」に取り組んでいます。地域の方々にも協力していただき全校児童で種まきや水やり、除草をします。そして収穫した種から「ひまわり油」を作り、朝市で販売しています。今年は、植えたばかりの種をカラスに全部食べられてしまうというアクシデントを乗り越え、昨年を上回る102kgの種を収穫し、200mL入りのビン140本のひまわり油を作ることができました。自然の厳しさやさしさを実感させられた一年となりました。



7 飯田川小学校(潟上市)

飯田川小学校では、毎年5・6年生の有志で地域に流れる豊川の水質調査をしています。豊川は八郎湖に流れ込む川の一つで、そこに棲む生き物から水の汚れや環境を知ることができます。今年参加した12名の児童は、そこで貴重な体験と発見をしました。

〈児童の感想から〉

○調査をして、たくさんの中や魚にさわったり、見たりすることで、川の水のよさや悪いところが見つかることができました。水質調査をして、川の水のよさがたくさんあることがわかったので、これからの生活に気をつけたいです。(6年女子)



○河口の川口と比べると、上流の水がきれい、流れも速かったです。水は上流に行けば行くほどきれいで、下流に行くほどよごれることが分かりました。人間のせいで水をよごさないよう気を付けたいと思いました。(6年男子)



9 イオン土崎港チアーズクラブ(秋田市)

イオン土崎港チアーズクラブは中学2年生をリーダーに、小学1年生からの総勢26名で環境活動をしております。

今年のテーマ「太陽」について環境の達人の先生よりお話をいただいたり、容器による太陽の温度を調べるなど自然と太陽の関わりを学びました。

また地域の方々との田植え・稲刈り・水質調査・植樹活動にも参加し交流も維持し続けております。

今後も身近な環境に積極的に参加し自然の大切さを大事にしたいと思います。



白神ふな植樹



海づくり大会清掃活動



ジュンサイ収穫体験

10 井川義務教育学校自然観察クラブ(井川町)

○自然観察クラブでは、地域の自然とのふれあいを大切にして活動を進めています。

今年度も地域の先生と一緒に日本国花苑の生き物や植物を観察したり、竹とんぼを作ったり、国花苑の沼でカヌーをこいだりしました。また、昭和60年から継続して井川町を流れる井川の水生生物調査を行っており、積み重ねてきた水質調査の結果は井川の水質の変化が分かる貴重な資料となっています。また、学校祭に合わせて「国花苑の自然フォトコンテスト」を行い、カヌー体験で活動の締めくくりとして行いました。今年度も自然の美しさやおもしろさを満喫することができました。



○水生生物調査に参加した児童の感想

ぼくは水生生物調査をしてみて、井川の水はきれいだなと思いました。上流の橋の下に初めて行きました。けっこう深かったです。橋の下には魚もいました。ぼくは、やっぱり川はいいなと思いました。



12 内小友小エコクラブ(大仙市)

内小友は大曲の花火会場から金谷橋を渡って4kmの所にある自然豊かな地域です。内小友小エコクラブは、全校85名でリサイクル活動・清掃活動・農作業などを行っています。

5月にはスポーツゴミ拾いを行いました。これは、内小友小学校から半径1km以内のエリアを全校縦割りグループ10班に分かれ、ゴミを拾いまくるものです。また、大曲の花火大会翌日には、「花火の里クリーンアップ」と称して、地区内のゴミ拾いを行いました。

このように、「地域に喜んでもらえる活動」をモットーに、これからも内小友小エコクラブは力を合わせてがんばっていきます。



5月のごみ拾い



花火の里クリーンアップ

13 雄物川小学校（横手市） （R 1 環境教育支援校）

本校では、生活科や総合的な学習の時間を使って地域の自然や、地場産業のスイカ栽培に触れる活動を行っています。低学年は近くの公園で秋探しを行ったり、地域の保育園児を招待して秋のおもちゃ遊びをしたりしました。また、4年生は、地域の高校やJA青年部の協力を得て、地域の特産であるスイカ栽培に取り組みました。播種から成長観察、収穫、スイカ糖作りまでを行い、学習発表会の日には試食販売、そして、完熟した大きなスイカは地域の保育園や老人ホームにプレゼントしました。また、夏休み期間中には5・6年生が横手駅で地元産スイカのPR販売を行い、昨年学習した地元産スイカへの興味を一層深めることができました。様々な活動を通して、子どもたちは、地域の自然の恵みの素晴らしさをあらためて感じていました。



14 角間川小学校 エコクラブ（大仙市）

角間川小学校エコクラブでは、全校77人で自然を守る活動に取り組んでいます。

学校の近くに小川が美しい川港親水公園があります。3年生以上の児童がクリーンアップをしました。雪解けで汚れた公園を地域の方と共にきれいにすることができました。

また、全校で植物の栽培に取り組んでいます。縦割りグループが協力して育てたサツマイモを地域の福祉施設に配り、喜んでいただきました。

このような活動を通して、自然や地域を大切にしようとする気持ちを育てています。



16 こひつじっこクラブ（秋田市）

今年度から初参加。3～5歳児43名の子どもたちで活動しています。地域のゴミ拾いをしたり、プランターや畑で植物を栽培したり、自然に関わりながら、自然に優しくすることについて日々、考え合いながら活動しています。夏には自分たちが育てた野菜を収穫して『サラダ』や『夏野菜カレー』をクッキングして食べました。味はもちろん、「サイコー!!」と、たくさんおかわりしていました。これからも、自然に親しみをもち、「これって地球環境の平和だね」にたくさん気づきながら活動を深めていきたいと思っています。



どんな花が咲かな～ サラダを作ったよ～（親子クッキング） 地域のゴミ拾いにでかけたよ

17 十二所保育園エコクラブ（大館市）

昨年度に引き続き、地域の交流がある成章中学校が取り組んでいるペットボトルキャップ集めに協力しています。お家の人が集めてくれたキャップを子どもたちが届けることで『再利用』に興味を持ち、牛乳パックや食品トレー、お菓子の空き箱や包装紙等で迷路や玉入れゲーム、ほうきやちり取り等をつくって遊んでいます。廃材に触れる中で『リサイクル』という言葉を知り、身近な物についているマークに気付き、再利用できる物があることを話し合えるようになってきています。さつまいものつるを使って綱引きごっこやなわとび、クリスマスリースづくりをしました。豊かな自然の中、自分たちでできるエコを考えながら遊びや生活に取り入れていきたいと思っています。



18 成章小学校（大館市） （R 1 環境教育支援校）

今年度も、成章小学校では枝豆栽培や米作りに取り組みました。豊作だった枝豆は福祉施設や地域の方に贈り、喜んでいただきました。特に、枝豆を使った児童企画のオリジナル成章バーガーは大好評で、ふるさと学習の日に児童、保護者、教職員、地域の方みんなで味わいました。このほかに、米代川でのアユ放流、夏休みに行った5年生の白神自然体験学習など、自然にかかわる活動がたくさんありました。また、児童会が呼びかけて集まったペットボトルキャップはおよそ200kg。こちらもしリサイクルして、プランターに生まれ変わります。これからも、自然に積極的にかかわる活動を全校で続けていきます。



枝豆の収穫

アユの放流

20 醍醐小学校キラリエコクラブ（横手市）

醍醐地区は、豊かな自然環境を活用したリンゴの里として有名なところ。今年度は、水が抜けてしまって使っていなかった中庭の池を、子どもたちが主体となって補修する工事をしました。「ザ・池」と名付けられたこの池と周辺は、子どもたちが休み時間や放課後に、遊びながら自然と触れ合うとともに、トンボの羽化や水鳥が休んでいる姿などを観察できる場所になりました。

水辺の様子や生物に関心をもった子どもたちは、秋に行われた川の観察や、冬に行われた「おもしろ理科実験講座」でも夢中で活動に取り組み、水辺の環境づくりを進んで考えるようになりました。



中庭「ザ・池」工事の様子



五年理科・川の見学



おもしろ理科実験講座・ミジンコとミドリムシの観察

21 チビっ子クラブ（秋田市）

第二ルンビニ園年中クラスでは、身近にある素材を使った制作遊びが好きです。

はじめは、トイレットペーパーの芯で竿燈を作り、「どっこいしょ、どっこいしょ。」の掛け声に合わせおまつりごっこを楽しんでいました。はさみやのり、セロハンテープなどが上手に使えるようになると「○○つくりたい!」と、一人ひとりがイメージしたものを作るようになり、今は皆でおみせやさんごっこをしようとクッション材や新聞紙等を使ってお寿司やたこやき、ケーキ作りを楽しんでいます。

今日は何を作ろうかな? 身近にある素材を素敵な作品へと変身させる子どもたちの目がキラキラ輝きます。



22 戸島小学校エコクラブ（秋田市）

戸島小学校のエコクラブは、6年生9名をリーダーに、全校児童70名で活動に取り組んでいます。6月には12の縦割り班で、学校周辺の通学路を4コースに分かれて清掃する「としまっ子クリーン大作戦」を行いました。

また、学団ごとの活動として、1・2年は校地内にある「にここ農園」でのさつまいも作り、3・4年生は岩見川でのバードウォッチング、5・6年生は中庭にある「トシマ」(花畑)での花壇づくりを行いました。

今後も身近な環境に積極的にしかかわる活動を通して、生き物や自然を大切にしようとする心を育てていきたいと思います。



としまっ子クリーン大作戦



花壇づくり

24 長木っ子（大館市）（R1環境教育支援校）

私たちの学区には希少種であるエゾタンポポの群生地があります。その発見を契機として「エゾタンポポプロジェクト」と称した活動を今年も継続しています。

一人一鉢でエゾタンポポを育てる活動やタンポポ委員会を中心にしたエゾタンポポの植栽活動、草や木を組み合わせる創り上げる草木塔作り、エゾタンポポについての知識を問うエゾタンポポ検定、群生地の保護活動などです。これらの活動から、「命を見つめる活動」へと取り組みが広がってきています。



25 にしだてエコクラブ（大館市）

子どもたちの歓声が響き渡る畑での活動は、とても活き活きた風景です。土に触れ汗を流しトマトをほおぼり、18種類の野菜づくりを楽しんでいます。

サツマイモのツルで作るリース。でっかいブロッコリーやカリフラワーは給食に。シソキュウリやナスは浅漬けで。

年長さんはピーマン・キュウリ・トマトの取れ高表を作成しました。両手の指では足りない日が多かったです😊😊。

自然を楽しめる環境は一人ひとりが大事にしたい、そんな心模様で畑を舞台に活動しました。



26 西目シーガルエコクラブ（由利本荘市）

今年度、西目小学校科学クラブでは、校地内の親水公園の整備に取り組みました。池をきれいにすることは周辺の水田へ流れていく水をきれいにすることにも繋がります。広い池の水を抜いた後にブラシで隅々までこすり、池がきれいになるまでがんばりました。メダカのいる小さなひょうたん池もあります。たくさん落ち葉や泥をすくい上げることは大変でしたが、科学クラブの子どもたちは最後まで一生懸命に清掃作業を行いました。

西目小学校の子どもたちにとって大切な親水公園がいつまでも自然豊かな場所で有り続けるように、環境を守る活動に取り組んでいきたいと思います。



親水公園の清掃



ひょうたん池の放流

27 西目中理科クラブ（由利本荘市）

（R1環境教育支援校）

科学部の研究として、酢酸ナトリウムの再結晶化が起こりやすい割合として、酢酸ナトリウム20gと水8gという値を見つけました。この値を用いて、市科学フェスティバルにて、「使い捨てないカイロ」としてブースを開き、たくさんの方に体験をして楽しんでもらいました。お客様との会話を通し、コミュニケーション能力も高まりました。今後も様々な実験に取り組み、環境に優しい技術の開発に挑戦していきます。

